

第二日 第1-1

分析批評による文学教材指導法の研究

埼玉大学大学院 渡司 恵理子

1. 国文学研究法としての分析批評

(1) 小西甚一

(2) 川崎寿彦

2. 分析批評の国語科教育への導入

(1) 井関義久→ 藤井圀彦

(2) 向山洋一→教育技術の法則化運動

佐々木俊幸 西尾一 大森修

浜上薫 寺崎賢一 石岡房子

本発表の内容

3. 分析批評の可能性と限界

4. 分析批評の実践

現在、国語教育界で広がりを見せている分析批評とは、「向山型分析批評」と呼ばれる、主な発問をすることによって子供を討論状態に導く授業のことである。また、この「向山型分析批評」と方向を異にする授業には、井関氏の理論を忠実に実践に移した藤井圀彦氏の分析批評がある。そこで、現在の分析批評の二大方法であるこの二つの理論と実践を比較、検討する。

そして、今回の発表では、2の(2)の向山氏の提唱する教育技術の法則化運動の各氏の分析批評の内実を比較、検討する。「向山型分析批評」の中でも、独自の授業体系を築いていたり、向山氏と微妙に理論、授業方法が異なっていると考えられる、上記の各氏を主に、取り上げる。

今後の研究として、現在のように流行している分析批評には国語教育に有効な点があるからに他ならないが、その本質は何なのかを考察する。また、流行している反面、批判も後をたたないということは、分析批評に行きすぎ、限界があるということである。その点について、各氏の批判がどこに向けられているかをまとめる。

そして、井関氏の分析批評を含めて、自分なりの分析批評理論と実践、指導案を作成し、実際の現場において検証授業を行ってみようと考えている。